

Congreso Futuro 2025

2025年1月13日から18日まで、中南米最大級の科学技術イノベーション関連イベント「Congreso Futuro 2025」がチリで開催されました。当館と主催団体の連携により、日本から4年ぶりに3名の専門家の参加が実現し、14日、以下のとおり講演を行いました。

1. 出口康夫 京都大学大学院文学研究科教授／京都哲学研究所共同代表

ブロック7：現実を上書きするテクノロジー

「Towards a Fellowship Model in AI Ethics -An Alternative Vision」

AI時代における人間とAIの関係性について、AIを単なる道具や奴隷として扱うのではなく、対等な仲間として位置づけ、人間とAIが協働して新たな価値を創造する関係性を目指す。出口教授は「We-turn」という概念を提唱し、個人の行為や決定が他者との共同作業により成り立つことを強調し、人間とAIを含む多様なエージェントの協働がより豊かな社会を実現することを主張。



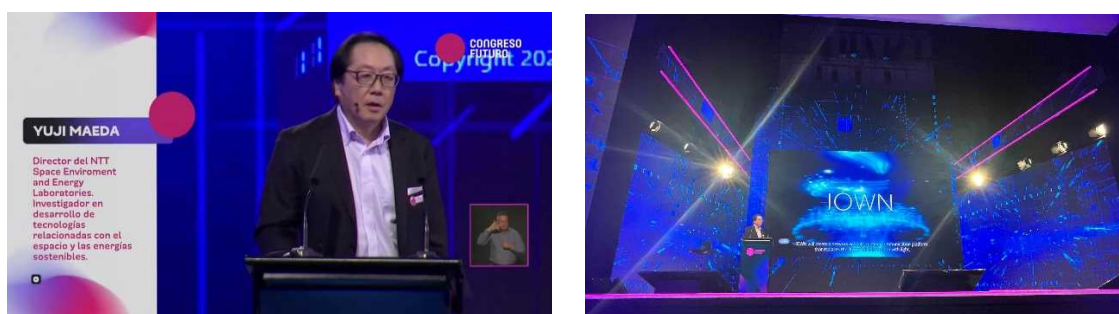
出口教授の講演

2. 前田裕二 NTT 宇宙環境エネルギー研究所長

ブロック7：現実を上書きするテクノロジー

「From Electronics to Photonics: Toward Innovations that Break Limitations」

NTTが推進する「IOWN (Innovative Optical and Wireless Network) 構想」の講演。最先端の光技術等を活用した次世代のネットワーク基盤構想で、「光電融合技術」等により大容量、低遅延、低消費電力を兼ね備えた革新的なネットワーク基盤・情報処理基盤の構想を紹介し、AI時代において、このような消費電力削減と経済成長を同時実現するイノベーションの必要性を強調。



前田所長の講演

3. 上村治 ソフトバンク渉外本部副本部長

ブロック 11：ダメージへの対処

「NTN and HAPS towards Beyond 5G/6G Era」

ソフトバンクが研究開発する「HAPS（High Altitude Platform Station）」の講演。HAPSは、成層圏（高度約 20km）を長期間飛び続ける無人航空機を通信基地局のように運用し、広域エリアに通信サービスを提供する次世代の通信技術を紹介し、特に災害時のライフラインとしての重要性を強調。



上村副本部長の講演

また、日本の専門家のチリ訪問の機会を捉まえ、13日には、前田所長によるチリ運輸通信省通信次官官房（SUBTEL）向け講演、14日には、出口教授によるチリ大学哲学・人文学部向け講演を実施しました。



SUBTEL 講演（アラジャ通信次官挨拶）



チリ大学講演

今回の Congreso Futuro 2025 への日本の参加は、日本が考える未来の社会について、テクノロジーとフィロソフィーの両面から新たな価値提案を打ち出す絶好の機会となりました。これらの取組を通じて、科学技術イノベーション分野における日チリ間の交流が今後ますます加速することが期待されます。